室町時代

名前

問1　14世紀後半、明が民間人の海外渡航や私的な貿易を厳格に制限した「海禁」と呼ばれる政策をとった主な目的として、最も適切なものはどれか。（2025年 沖縄県公立入試 類似）

1. 鉄砲やキリスト教などの新技術が流入するのを防ぐため
2. キリスト教の布教を制限して幕府の権威を守るため
3. オランダや清以外の船舶の来航を完全に禁止するため
4. 倭寇の活動を鎮圧して国内の安定を図るため

問2　室町時代、近畿地方を中心に農民たちが自衛や用水の管理などを目的として結成した、自治的な村組織を何と呼びますか。（2025年 群馬県公立入試 類似）

1. 問丸
2. 惣村
3. 座
4. 株仲間

問3　足利義満が明との貿易を推進したことにより、当時の日本国内の経済に与えた影響について述べたものとして、最も適切な説明はどれか。（2018年 岐阜県公立入試 類似）

1. 日本から銀が大量に流出したことで、国内の物価が下落し、自給自足の経済へ戻った。
2. 明から大量の銅銭や生糸が輸入されたことで、国内の貨幣経済や産業の発展が促された。
3. 綿花が大量に輸入されたことで、日本国内で独自の綿織物産業が初めて確立された。
4. 鉄砲やキリスト教が伝来したことで、戦国大名の戦い方や思想に大きな変化が生じた。

問4　1428年に近江の農民から始まった正長の土一揆において、農民たちは奈良県の柳生街道にある岩に「正長元年よりさきは、借主はいない」という趣旨の内容を刻み、自らの要求が通ったことを示しました。このとき、農民たちが酒屋や土倉などの金融業者を襲撃して求めたものは何ですか。（2022年 徳島県公立入試 類似）

1. 兵役の免除
2. 借金の帳消し
3. 年貢の減免
4. 土地の返還

問5　「下剋上」の風潮によって、室町時代の地方政治において生じた変化として正しいものはどれですか。（2018年 愛知県公立入試 類似）

1. 守護代や国人が、実力で守護大名に代わって領国を支配する戦国大名が現れた。
2. 白河上皇が位を譲った後も政治を行うことで、摂関家から実権を取り戻した。
3. 北条氏が執権として幕府の実権を握り、独自の法律を定めて武士を統制した。
4. 幕府が御成敗式目を制定し、裁判の公平性を高めることで農民の不満を解消した。

問6　室町時代に足利義満が明（中国）との間で始めた貿易では、「勘合」と呼ばれる割符が使用されました。このような仕組みが導入された背景にある、当時の東アジア情勢として最も適切な説明はどれですか。（2020年 福島県公立入試 類似）

1. キリスト教の布教を防ぎながら、幕府が海外貿易の利益を独占しようとしたため
2. 沿岸部で海賊行為を行っていた倭寇と、正式な貿易船を区別する必要があったため
3. 平清盛が推進した日宋貿易の形式を継承し、大量の銅銭を効率よく輸入するため
4. 朱印状を持つ商人にのみ渡航を許可し、東南アジア諸国との取引を管理するため

問7　1467年に京都で始まり、約11年間にわたって続いた戦乱について、その発生の直接的な背景と、社会に与えた影響の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。（2021年 新潟県公立入試 類似）

1. 徳川家康と石田三成の対立が背景となり、戦乱の後には幕府による大名への統制が厳しくなった。
2. 農村での一揆が全国に広がったことが背景となり、幕府が守護大名の力を借りて農民を支配する体制が強化された。
3. 将軍のあとつぎ問題や守護大名の対立が背景となり、実力のある者が上の身分の者に打ち勝つ下剋上の風潮が広がった。
4. 海外との貿易利権をめぐる対立が背景となり、将軍の権威が高まって守護大名の力が弱まった。

問8　室町幕府の第八代将軍であり、京都の東山に慈照寺（銀閣）を建立したことで知られ、簡素で落ち着きのある文化を育んだ人物は誰ですか。（2015年 山口県公立入試 類似）

1. 足利義政
2. 足利尊氏
3. 足利義満
4. 足利義持

問9　日本の美術作品の特徴を説明した次の記述のうち、室町時代に雪舟によって確立された「水墨画」の表現に該当するものはどれですか。（2016年 山口県公立入試 類似）

1. 江戸時代の町人の風俗や役者の姿を、鮮やかな多色刷りの版画として描いている。
2. 貴族の生活の様子を、寝殿造の建物を舞台に華やかな色彩を用いて描いている。
3. 険しい山岳や力強い筆致の木々を、墨一色の濃淡によって静寂の中に表現している。
4. 城郭の内部を飾るため、金箔を背景に色彩豊かで豪華な障壁画として描いている。

問10　室町時代の社会構造の変化において見られた「惣（惣村）」の活動内容として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 福岡県公立入試 類似）

1. 公地公民の原則に基づき、政府から農民へ一定の土地が貸し出され、死後は国に返還された。
2. 商工業者が寺社や公家に税を納める代わりに、商品の独占販売権などの特権を得て活動した。
3. 農民たちが寄り合いを開いて村の掟を定め、用水の管理や裁判、警察的な役割を自ら担った。
4. 幕府や大名が年貢を換金する拠点として、大坂などの都市に倉庫を備えた邸宅を運営した。

問11　鎌倉幕府を倒した後に始まった「建武の新政」が崩壊し、足利尊氏と対立したことで京都を離れ、奈良県の吉野において自らの正統性を主張する朝廷を開いた人物は誰か、次の中から選びなさい。（2024年 高知県公立入試 類似）

1. 後醍醐天皇
2. 桓武天皇
3. 足利義満
4. 後鳥羽上皇

問12　日本の歴史における主要な3つの変革である、「蘇氏を打倒して中央集権的な政治を目指した大化の改新」、「天皇家や藤原氏の権力争いに武士が介入するきっかけとなった保元の乱」、「鎌倉幕府滅亡後に後醍醐天皇が公家を重視して行った建武の新政」について、これらが発生した順序として正しいものはどれですか。（2022年 茨城県公立入試 類似）

1. 保元の乱 → 大化の改新 → 建武の新政
2. 大化の改新 → 保元の乱 → 建武の新政
3. 大化の改新 → 建武の新政 → 保元の乱
4. 建武の新政 → 保元の乱 → 大化の改新

問13　室町時代に農村で形成された自治組織である「惣」の活動内容や当時の社会背景について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2020年 秋田県公立入試 類似）

1. 朝廷や幕府の公認を得て、特権的な販売独占権を持つ商工業者の集団として、市場での自由な取引を制限した。
2. 領主が支配を強めるために有力な農民を村役人に任命し、年貢の取り立てや裁判のすべてを幕府の代わりに行わせた。
3. 江戸幕府の命令により、キリスト教の禁止や年貢の納入を徹底させるため、近隣の数軒を一つの単位として連帯責任を負わせた。
4. 農業生産力の向上を背景に、農民たちが寄り合いを開いて村の掟を定め、水利の管理や入会地の共同利用を自主的に行った。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 倭寇の活動を鎮圧して国内の安定を図るため	明は建国当初、国内の秩序を安定させる必要がありました。当時、東シナ海などの沿岸部では倭寇（日本人を含む海賊集団）が活発に活動しており、これを取り締まるとともに、民間人が勝手に海外勢力と結びつくのを防ぐために海外渡航や私的な貿易を禁止しました。これを海禁と呼びます。
問2	答え 2 惣村	室町時代になると、農民が団結して自立的に運営を行う「惣村」が形成されました。惣村では、村の神社などで「寄合」と呼ばれる会議を開き、入会地の管理や用水の配分、年貢の納入交渉などを共同で行いました。こうした自治の広がりは、当時の農民が社会的地位を高めていたことを示しています。
問3	答え 2 明から大量の銅銭や生糸が輸入されたことで、国内の貨幣経済や産業の発展が促された。	日明貿易では、日本からは刀剣や硫黄などが輸出され、明からは銅銭（永楽通宝など）や生糸、書画などが輸入されました。特に大量の銅銭が流入したことは、それまで未発達だった日本の貨幣経済を大きく前進させ、市場の活性化につながりました。
問4	答え 2 借金の帳消し	室町時代の正長の土一揆では、凶作や流行病で苦しむ農民たちが、将軍の代わり目などをきっかけに「徳政（とくせい）」を求めて蜂起しました。農民たちは、質に入れた品物を取り戻したり、借金をゼロにしたりすることを目的に、金融業者である酒屋や土倉を襲撃しました。柳生の徳政碑文は、この一揆の結果として借金が無効になったことを今に伝える重要な史料です。
問5	答え 1 守護代や国人が、実力で守護大名に代わって領国を支配する戦国大名が現れた。	下剋上の風潮が強まると、それまで守護大名を補佐していた「守護代」や、地方の有力武士である「国人」たちが、自らの実力で主君を倒して領地を支配するようになりました。これによって誕生した勢力は戦国大名と呼ばれ、各地で独自の分国法を制定するなどして支配を強めました。
問6	答え 2 沿岸部で海賊行為を行っていた倭寇と、正式な貿易船を区別する必要があったため	室町時代の初期、朝鮮半島や中国沿岸では「倭寇」と呼ばれる海賊集団が活動し、略奪行為を行っていました。明の皇帝は日本に対して倭寇の取り締まりを強く要求しました。これに応じた足利義満は、明との正式な貿易を行う際、中央に文字を書いて二分割した「勘合」という証明書を持参させ、明側の所持するものと照合させることで、正式な使節と海賊を厳別する仕組みを整えました。
問7	答え 3 将軍のあとつぎ問題や守護大名の対立が背景となり、実力のある者が上の身分の者に打ち勝つ下剋上の風潮が広がった。	室町時代の中期、8代将軍足利義政の後継者をめぐる争いに、細川勝元と山名宗全という二大守護大名の勢力争いが結びついたことで応仁の乱が勃発しました。この戦乱により幕府の権威は失墜し、中央の統制が及ばなくなったことで、身分が下の者が実力で上の者を倒して領地を広げる「下剋上」の風潮が全国的に広まりました。これが、のちの戦国時代へとつながる大きな転換点となりました。
問8	答え 1 足利義政	彼は政治の実権からは距離を置くようになりましたが、銀閣を拠点に茶の湯や生け花、書院造といった後の日本文化の源流となる東山文化を大成させました。武家の力強さと禅宗の精神性が融合した、わび・さびを基調とする文化の保護者として歴史に名を残しています。
問9	答え 3 険しい山岳や力強い筆致の木々を、墨一色の濃淡によって静寂の中に表現している。	雪舟の水墨画は、中国の技法に基づきながらも、力強い線や構図によって日本の風景や精神性を表現しているのが特徴です。他の選択肢にある、華やかな色使いの絵巻物は平安時代の貴族文化、多色刷りの版画は江戸時代の浮世絵、金箔を用いた豪華な障壁画は桃山時代の文化の特徴です。
問10	答え 3 農民たちが寄り合いを開いて村の掟を定め、用水の管理や裁判、警察的な役割を自ら担った。	惣の最大の特徴は「自治」にあります。14世紀から15世紀にかけて、農民たちは団結して村の運営を自分たちの手で行うようになりました。これには共有地の管理や水争いの調停だけでなく、村の治安維持も含まれます。こうした強力な団結力が、後に領主に対して年貢の減免などを求める「土一揆」の基盤となりました。他の選択肢は、座、蔵屋敷、口分田に関する説明です。
問11	答え 1 後醍醐天皇	鎌倉幕府滅亡後、天皇中心の政治を取り戻そうとして「建武の新政」を行ったが、武士の不満を招いたことで足利尊氏に反旗を翻された。尊氏が京都に別の天皇（北朝）を立てると、後醍醐天皇は三種の神器を持って吉野へ逃れ、自らの朝廷（南朝）の正統性を主張した。
問12	答え 2 大化の改新 → 保元の乱 → 建武の新政	大化の改新は7世紀（645年）に中大兄皇子らが蘇我氏を倒して始めた政治改革です。保元の乱は12世紀（1156年）に天皇領や摂関家内の対立を背景に起こり、武士の政治的影響力が高まる契機となりました。建武の新政は14世紀（1333年）に後醍醐天皇が鎌倉幕府を倒した後に始めた、公家中心の政治体制です。これらは古代、中世の画期となる出来事です。
問13	答え 4 農業生産力の向上を背景に、農民たちが寄り合いを開いて村の掟を定め、水利の管理や入会地の共同利用を自主的に行った。	室町時代の農村では、灌漑施設の管理や山野（入会地）の利用、さらには村の防衛などを自分たちで行う必要が生じました。これらを運営するために結成されたのが惣です。惣の団結力が強まると、領主に対して年貢の減免を要求したり、借金の帳消しを求める「土一揆」へと発展することもありました。